

特集：イチモンジセセリの発生予察法の改善

飼育法

長野県農事試験場病害虫部 ^{くわ}桑 ^{ざわ}澤 ^く久 ^に仁 ^{あつ}厚

「イチモンジセセリ調査基準早期策定事業」では、本種の生理的特性や生態に関する調査を行うため継代飼育を行う必要があった。

継代飼育法としては、中筋・本多(1979)および中筋(1991)で詳細な飼育方法が報告されているが、その中で述べているように成虫の交尾および採卵で失敗する例が多い。筆者らは、この方法を基に成虫の飼育および産卵を中心に①成虫飼育ケージ、②餌用苗の育成法、③野生虫の採取方法等で若干の改変を行ったところ、比較的簡易に安定した継代飼育が可能になったので、その内容を紹介する。

I 野生虫の採集

1 成虫

8月から飼育を開始する場合は、7月中～下旬に第1世代成虫がアカツメクサ等に訪花するので、これを捕獲し成虫飼育ケージ(後述、図-1)に入れ、イネ苗に採卵

させるのが一般的である。秋季の移動個体を除く春から夏に野外で採取された雌成虫はほとんど既交尾個体であるため交尾させる必要はない(表-1)。

2 蛹

成虫から始めるほかに、時期はやや限られるが、8月末頃に第2世代幼虫の多発園場で蛹を採集しても良い。多数の個体を採集するには蛹の採集の方が容易である。筆者は虫質の劣化を避けるため、こちらの方法により年1回更新を行っている。

一部の蛹から寄生性天敵が出てくるので、蛹は多めに(100頭程度)確保し、ウンカ類飼育ケージ等で羽化させた後に成虫のみを成虫ケージに移す。なお試験場内園場で採集した蛹の羽化時期のパラツキは少なかった。

表-1 カラートラップで捕獲された雌成虫体内の精包数(長野農事試, 2000)

誘因期間月/日	6/1~8/15	8/16~9/30
雌当たり平均精包数 (調査個体数)	1.02 202	0.27 56

注) 水田畦畔に設置した黄色粘着板および青色捕獲器に捕獲された雌成虫の解剖調査結果。

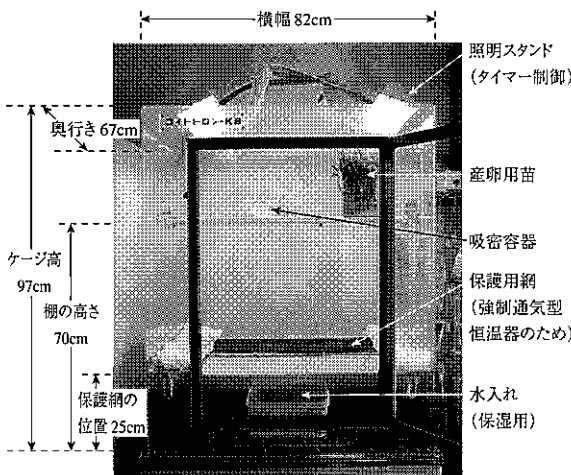


図-1 成虫の飼育・産卵ケージの概要

注) 「コイトロンKB」小糸工業, 昭和51年製, 下部が恒温器本体, 強制通風(循環)型のため, 成虫が吸気口に捕らわれないよう保護用の網と, 保湿用の水容器を設置してある。

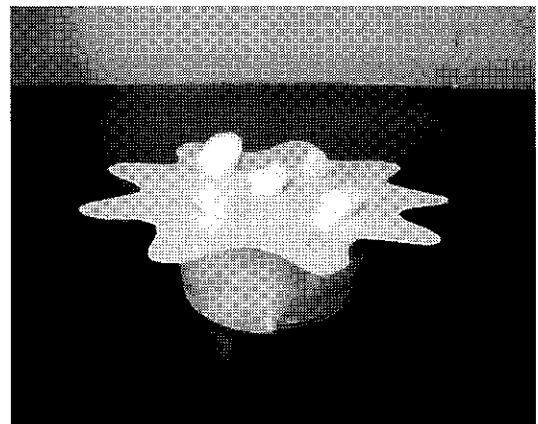


図-2 吸密容器

注) 透明ジャムカップ(直径80mm, 高さ40mm)の上に黄色アクリル板(0.5mm厚)を花形に切り抜いたものを置き, 穴に通した脱脂綿から吸密させる。

Rearing Method of Rice skipper, *Parnava guttata guttata*
BREMWER et GREY. By Kuniatsu KUWAZAWA
(キーワード: 飼育法, イチモンジセセリ)